

様式 1

教員 EA プロジェクト応募資料

応募区分	教育実践部門
所属（学校名）	羽島市立正木小学校
氏名	野田美佳
取り組んだ課題	通級指導教室（自閉）における指導の創意工夫
具体的な活動内容	<p>1 担任、保護者、児童との連携のための工夫</p> <p>(1) 指導ノート活用の工夫 通級指導教室での指導内容について情報共有するために、担任と保護者の間で指導ノートを回覧している。コメント欄で情報交流をしている。</p> <p>(2) 面談の工夫 通級指導教室担当者が個別懇談会に同席 通級指導教室担当者が、年間 2 回の個人懇談会に同席し、指導状況を担任と保護者に伝えると共に、今後の方向性を確認している。</p> <p>2 個に応じた手立ての工夫 ～児童 A への指導から～</p> <p>(1) 児童 A の実態 じゃんけんをして負けることが許せず、仲間と良好な関係を築けない。</p> <p>(2) 手立て ①じゃんけんの勝ち負けよりも、じゃんけんをすることで仲間と楽しい生活ができることを助言した。通級指導教室で、2 人でじゃんけんの練習をする。児童 A は、勝ち負けにこだわらず、楽しむことができた。</p> <p>②家庭との連携 指導ノートを通じて、家庭でじゃんけんを楽しんでもらうよう依頼したところ、家族でじゃんけんをすることができた。</p> <p>③学級担任との連携 こうした指導の経過を学級担任に伝え、学校の生活の中で少人数によるじゃんけんを取り入れた活動ができ、楽しむことができるようになった。</p> <p>3 自作教具の開発 ～児童 B への指導から～</p> <p>(1) 児童 B の実態 LD 児、平仮名、カタカナの文字と音が繋がらない。</p> <p>(2) 手立て ①自作教具の開発 例 「あ」の文字と音としての「あ」を結びつけるために、アリの絵を描き、そこに「あ」の文字を書いたカードを自作した。児童は、ア리를イメージし、そこにある文字「あ」を発語することができた。</p> <p>②家庭との連携 家庭で実践したため、文字と音がつながるようになった。</p>
取り組み成果	<ul style="list-style-type: none"> 通級指導教室担当者と学級担任、保護者、児童の連携を密にすることにより、4 者の中で信頼関係を築くことにつながり、そのことが児童の学校生活の改善につながった。 通級指導教室へ通う児童の学校生活上のトラブルは、昨年度比で大きく減少している。
今後の活動展開	<ul style="list-style-type: none"> 通級を利用している児童で愛着障害のような様相を呈する児童への効果的な指導方法を考えること。 LD 児の発語のための自作教具の工夫改善 平仮名から片仮名への移行
校長所見	児童 A、児童 B に見られるように、個の実態に応じた指導を的確に行うことで、生活上や学習上の困難さの改善につながった取組である。LD 児の発語のための自作教具は、他の児童への参考になる取組である。

参考資料

1 平仮名と発音を結びつけるための自作のカード 【ステップ1】



(1)アリの絵に、「あ」の文字を重ね合わせたカードを提示する。アリの「あ」と、発音の「あ」を結びつける。アリのあたまが「あ」と繰り返し発音することで、文字と音を結びつける。

(2)傘の絵に、「か」の文字を重ね合わせたカードを提示する。「か」と発音の「か」を結びつける。「かさのほね」と発音することで、文字と音を結びつける。

(3)キツネの絵に、「き」の文字を重ね合わせたカードを提示し、同様に練習をする。

2 濁音と半濁音の文字と発音を結びつけるための自作のカード 【ステップ2】



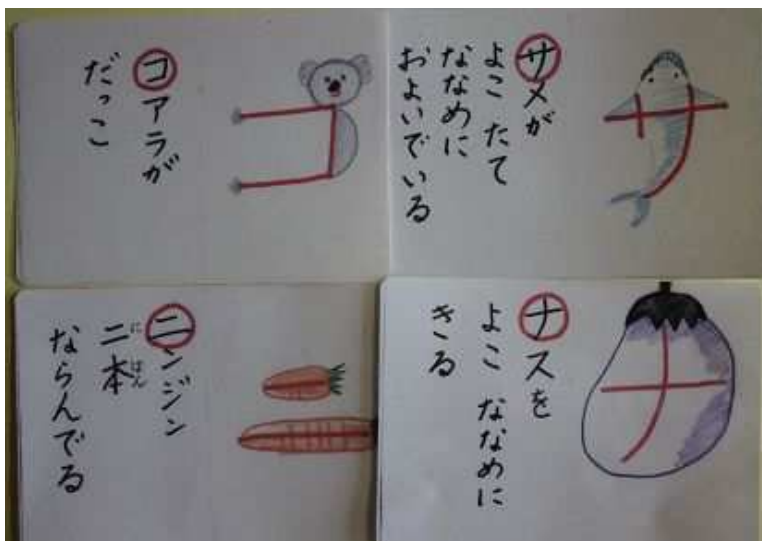
(1)濁音の「ぐ」は、くつの絵にお菓子の「ぐみ」がくっついているカードを提示する。「ぐ」の文字と発音を結びつける。

(2)半濁音の「ぷ」は、船の上にプリン（プリン）の絵を書いてあるカードを提示する。「ぷ」の文字と発音が結びつける。

【指導の結果】

自作のカードの活用により、児童は文字と発音が結びついた。

3 最初の文字と発音を結びつけて文章化するための自作の図 【ステップ3】



文字と発音の学習が進んできたところで、最初の文字を用いて、文章を読み上げる。

教員が文字を示しながら、発音することを示範する。その後、児童と一緒に発音練習を繰り返す。

【指導の結果】

最初の文字の発音がスムーズにできるようになったため、文章も読めるようになった。